

令和5年度 苫小牧市図書館協議会第2回臨時会

令和6年2月21日（水）午後2時
苫小牧市立中央図書館 2階講堂

○議長 それでは議事を進めてまいります。

本日は、今館長からお話しのありました5年間の運営計画の評価です。トータルではありますけれども、基本は運営計画に沿ってできているかというところについて、後から館長から説明をいただきますので、質問・意見がありましたら述べていただきたいと思います。

まず、委員の評価方法について図書館長からご説明をお願いいたします。

<図書館長、資料に基づき説明>

○議長 評価方法について質問やご意見ある方いらっしゃいますか。

(意見・質問等なし)

それでは、運営計画評価書の取組結果及び自己評価について、項目ごとに説明をしていただきます。ひとつずつ区切って意見を伺いますので、何かお話することあったらそこをお願いします。

それでは、運営計画の1「基礎的なサービスの充実」について、取組結果及び自己評価について説明をお願いいたします。

<図書館長、資料に基づき説明>

○議長 今の説明について、御意見や御質問がある場合、挙手をお願いします。

○委員 成果指標の②と③について、郷土行政資料のデジタル化が進んでいると思いますが、これは蔵書しているものをデジタル化しているのでしょうか。

○館長 そうです。

○委員 デジタル化したら、紙のものはどうしているのでしょうか。捨てているのでしょうか。

○館長 いえ、そのまま所蔵しています。

○委員 ということは、デジタル化すると②の数字は減らずに実際の本としては増えていないけれども、③の方は増えると、そういうことになるのでしょうか。

- 館長　そうです。
- 委員　わかりました。あともう1点教えていただきたいのは、成果指標の①、②、③はすべてが運営計画1の1番の成果指標だと思いますが、2番3番4番についてはどのような評価をしているのか教えてください。おそらく2番3番4番に対する成果指標がないと思うので、この運営計画が達成できたかがわからない。ですので、どのような評価をしているかを簡単に教えてもらいたいと思います。
- 館長　2番3番で具体的な取組内容を記載していますが、それに関しましては、全て期間内で実施したという評価をしています。
- 委員　この2番3番4番についても、当初の計画どおり実施できているということですね。
- 議長　ほか、いらっしゃいますか。
なければ、運営計画2の説明をお願いいたします。

<図書館長、資料に基づき説明>

- 委員　レファレンス受付数は、どのようにカウントしているのでしょうか。受付フォームに質問があったら1件なのか。何をカウントしているものなのかがわからないので。
- 館長　レファレンス受付フォームに質問が入っても1件ですし、1階や2階の窓口で受けた件数も入っています。
- 委員　例えば、自分が探している本が見つからないのでどこにありますかという質問も件数に入りますか。
- 館長　入ります。
- 委員　そうすると、この受付件数が多いことが必ずしも良いわけではではないという気がしますが、令和元年に7,000件以上あったものが、コロナ禍では来場者数が減って、当然それに伴って下がると思います。しかし、令和5年度に増えていない理由は何かわかっているのでしょうか。
- 館長　令和5年度は見込み件数ではありますが、下がる見込みでおります。その傾向としましては、図書館に長時間滞在せず、予約の本だけを借りに来る方々が増えていることが要因の一つではないかと考えております。
- 委員　評価についてですが、今のお話にもありましたように、コロナという不測の事態が数年続いていましたので、特に接客するという条件が今回ついていますから、C評価というのは厳しく律しられているのもよくわかりますが、総合評価としてはB評価でも良いかなと考えております。こういう非常事態なのだと思いますが、いかがなものなのでしょうか。
- 委員　私もそのように感じておりました。数字は減ってはいますが、コロナ禍の状況を

思いますと、これだけの人がそれでも来てくれていたのだなと感じます。ただ、それを評価にどのように反映するのか、評価の方法にも色々あるのだらうと思いますが。私も低いなあと感じていたところなので、意見を述べさせていただきます。

- 館長 ありがたいお言葉をいただき、感謝しておりますが、自己評価として指標をもとに数字で評価いたしますと、C評価ということになってしまうかと思っています。
- 議長 ここで聞いて変えるということではないのですね。では、委員の意見として評価書に太字で書いておいてください。ほか、運営計画2の部分でいかがですか。それでは運営計画3について、説明をお願いします。

<図書館長、資料に基づき説明>

- 委員 総合評価がCですが、資料の2ページを見ると評価は80%以上の場合にBということになるかと思っています。評価指標が①と②があって、②の方は5年間平均で80%を超えていると思います。なので、①の方は、ぎりぎりCだという気はしますが、片方はB評価ですし、コロナ禍だったということも踏まえると、総合評価もまあBでもいいのかなという気がします。
- 館長 先ほどもご説明しましたが、現在行っている事業に関して、現状維持が多かったなと感じおり、事業の見直しをもう少しできたらなという反省の意味も込めましてC評価とさせていただきます。
- 議長 先ほど同様ですね、B評価でも良いのではないかとすることは、評価書の方にも書いていただければと思います。
ブックちゃん未利用の学校はどれくらいですか。
- 館長 現在9校しかご利用になっていない状況です。
- 議長 小学校のみですか。
- 館長 小中合わせて9校です。
- 議長 次年度にはブックちゃんを使ってもらうように、私もPRしたいと思います。
- 委員 令和4年度に設置されたYA世代間の情報交流コーナーですが、この図書館は10代20代の利用者が一番少ないと思いますが、具体的な効果があれば教えてください。
- 館長 YA世代間の情報交流コーナーといたしまして、「図書館同盟」というタイトルをつけ、おすすめの本等のポップを作っていただいて、展示しています。展示した本がすべてなくなるぐらい貸出されている状況ですので、同世代の子たちが何をを読んでいるか興味があるのだと思っています。
- 委員 さっきの未利用の学校の件ですが、アプローチしていく、と資料に載っているので、具体的に聞いてよろしいでしょうか。どこに働きかけたら利用が促進される

のかというのが疑問で、例えば、校長会等の場で話すとか、学校司書に直接働きかけるとか。いろんな方法があると思いますが、具体的にどのような形をとったら利用してもらえるのか、お考えがあればお聞かせください。

○館長 委員御指摘のとおり、もちろん校長会での説明や、例えば学校司書や図書担当の教諭とも連携したいと考えています。草の根運動ではありませんが、ブックちゃんを使ったらよかったという先生方の御意見が大切だと思いますので、そういう地道なところから、再度始めていきたいなと思っております。

○議長 わたくしたち苫小牧学校図書館協会もPRしていきたいと思えます。

○委員 ブックちゃんのPRですけれども、私の個人的な仕事のほうで、学校の皆さんに事業を知っていただきたいなって思ったときに、学校にポスターの掲示をお願いしていました。ブックちゃんは校長会でPRしていただけるかもしれませんが、学校によっては校長先生だけがその資料を見て、一般職の教諭の皆さんは知らない、なかなか利用につながらないという部分を感じていました。ポスターだと、職員室などの見えるところに貼っていただければ、すべての先生方の目に留まるので、ぜひポスターの掲示も検討していただけたらと思っています。

○館長 早々に検討させていただきます。ありがとうございます。

○議長 ほかがございますか。

では、運営計画4について説明をお願いいたします。

<図書館長、資料に基づき説明>

○館長 事前にいただいておりましたご質問がありますので、こちらでご紹介して回答いたします。

「図書館の職員がよく変わる、長く苫小牧に勤務しないという声を耳にします。辞める、異動する理由はどのようなものがあるのか、答えられる範囲で教えてください。」といただいておりました。

理由としましては、ここ数年、定年退職、家族の転勤・介護と家族を理由に退職するスタッフがおりました。また人生の節目節目に、再度自分の人生を見つめ直し転職という道を選ぶスタッフもおります。子育てなど各家庭に合わせて、働き方も考慮してまいりましたが、どうしても土日祝日、遅番と勤務が変則的なことも多く、もう少し子供が大きくなったらまた働きたいと言って退職するスタッフもおりました。

以上、回答させていただきます。

○議長 図書館の仕事っていうのは土日の勤務があり、そこは皆さん均等に勤務されるわけですから、家族の関係でなかなか土日勤務が厳しいという方がやっぱりいらっしゃるということですね。苫小牧だから特に大変だ、ということではないですよ

ね。どこの図書館でも土日勤務はあるわけですから。

- 館長 そうですね、開館時間は違えど土日祝日は開館している図書館がほとんどだと思います。
- 議長 ほかに御質問等よろしいですか。
では全体評価についての説明をお願いします。

<図書館長、資料に基づき説明>

- 委員 あえて自分たちにCという評価で厳しくすることによって、今後、逆に私たちが少し期待をしてしまう部分があると思います。評価の中でも固定概念にとらわれずにやっていきたいというところもありますので、そういう意味でも、今後にとっても期待したいと感じています。
- 議長 今後にさらなる期待ということですね。先ほど話していた続きでいきますと、区分がC評価ではどうだろう、ということはないですか。
- 委員 先ほども館長から色々説明していただいて、数字だけで評価していることに関しては、私は疑問がありますが、それ以外のいろいろな評価というものがあると思うので。C評価でなくて良いという意見が委員から出ていることが、すでに数字以外の評価になっていると思います。そここのところを評価の中で補足として書いていただけたら良いかなと思います。それが、今後の期待にもなるということだと思います。
- 議長 トータルでもB評価にしてもいいのではないかと、思う方は評価書に書いて出していただければいいし、CはCでも今後の展望についてしっかり全体評価の中にも書いてありますので、そこに期待ということを書いて出していただければと思います。
- 委員 単純にこれを見ると目標が悪かったのではないかと、思うのですが。
- 館長 コロナを予測せずに設定した目標値になっておりまして。
- 委員 それにしても、令和元年度から目標をかなり下回っているということは、この目標を立てた平成の時というのは、この数字を達成できていたのでしょうか。
- 館長 資料にも基準値である2017年の数字を記載しております。その基準値から目標値を出しているという形なので、この2017年度の時にはこれくらいの数字でした。
- 委員 また次の5年間の計画を立てると思いますが、その時にはおそらく人口が減っていきます。計画を立てるときは、上に上がっていく計画を立てたくりますが、今後はむしろ右下がりになるのが現実だと思います。人口で割った利用率でしたら、横ばいとか右上がりでも良いのかもしれませんが、単純な数という意味では人口が減っているわけですから、成長してないと横ばいにならないので。ですから、次の5年間の計画立てるときには、そういうことも考えて、無理のない計画

を立てたほうが良いのかなあと、ここで発言することではないですけど、そう思いました。ですので、80%を下回ったらC評価というのは基準があるので仕方ありませんが、なんとなく無理な計画だったためにCになってしまったのかなあと、そこが少し残念な気がします。

○委員 委員に勇気をいただいたので、私も少し述べさせていただきますと、人口比で数字をあげたりというのもわかりますし、今、委員がおっしゃったとおりだと思いますが、そのほかにも高齢化率だとか出生率の低下だとかそういう部分はこれからも変動してくと思います。ですので、この評価の方法というのは大きく変えることはできないのかもしれませんが、人口の動きだとか社会の移り変わりに沿ったイベントを企画して人を呼び込むということ、今までも実施されていますけれど、とても良い取組がたくさんありますので、これからもどうぞ続けてください。応援していますので。あとは、もしかしたら難しいのかもしれないですけども、数字の評価だけではなく、客観的な評価の方法というのももしかしたらあるかもしれないので、ぜひご検討いただければと思います。

○議長 全体評価に関して、ほかにございますか。

はい、ありがとうございます。小分けに行いましたが、議事は以上で終了でございます。皆様のご協力大変ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しいたします。

(終了 14:50)

<出席者>

○委員

松井 操人	会 長
一谷 誠子	副会長
奥村 訓代	委 員
亀山 仁美	委 員
原口 祐子	委 員
村本 充	委 員

○事務局

教育部	斎藤次長
生涯学習課	河本課長
同	斉藤課長補佐
同	戸澤主任主事
同	仲世古主任主事
中央図書館	富田館長
同	広瀬副館長

<欠席者>

赤川 明美	委 員
和泉 雅子	委 員
坂木 真吾	委 員
八島恵利子	委 員